

# 銀座水族館(七つの海の魚および水産切手)



—27—

東京支店 神原 勇

マダコ		
分類	八腕目	マダコ科(頭足類)
学名	<i>Octopus vulgaris</i>	
英名	Devil fish	

全世界の海洋に分布し、日本アジア諸国及び地中海沿岸諸国のイタリア・スペインでは食用として賞味されるが、他の国々では英名の Devil fish (悪魔の魚) と呼称されるように毛嫌いされる事おびたしい。

イカ類の10本足と並んで8本足のタコ類は頭足類に属し、学名の *Octopus* は8本足を意味し語源的には October (10月) の Oct と同義である。8本足は足でなく実は4対の腕で各腕は傘膜と呼ばれる薄い膜でつらなり合って、スカートのように広げて相手を威嚇したり、好物のカニ・エビ等の甲殻類をこの傘膜の下方に取り集めておいてチラミン毒素を含んでいる唾液をふりそそぎ、一瞬のうちに殺し捕食するが、空腹満腹を問わず見つけ次第捕いその食欲は旺盛且貪食である。

二枚貝類も好物の一つで俗説にはタコが海底の小石を腕で押え、二枚貝を小石で叩き割って中身を食べると言われているが、いくら知能が進んでいるとは言い道具を使用するとは考えられない。二枚貝の貝殻の縁の部分の鋭く尖った顎板(カラストンビ)でこわして食べるので、タコの生息する岩穴の廻りには食べ捨てた貝殻が四散しているのが通例である。このような食性のためタコの群集体が二枚貝や真珠の養殖場を襲い大きな被害を与える事がある。

タコ類は胴、頭、腕の各部から出来ていて、我々が普通頭と呼ぶのは胴部で各種の器官が内蔵されていて外套膜の切れ目からは漏斗が突出し海水を取り入れ胴部中央部やや上方にある鰓で呼吸し再び漏斗より吐き出す。又胴部の最奥部には貝殻の痕跡をとどめている。胴部の真下の眼のある部分が頭部で眼球・脳・口球・歯舌・顎板があつて

顎板を囲むように腕を動かす神経が分布し脳へと集中している。

腕に2列に並んだ吸盤があるが、同類のイカの吸盤には角質の輪と柄をもっているが、タコは柄をもたず、弾力性のある筋肉質から出来ている。他のものに吸着するには表面が滑らかでなければならぬので常に新しく保たれ、古い皮質は脱落し新陳代謝が盛んに行われている。吸盤は良く発達した化学的触能をもっている所以他のものに触れただけで味覚を確認し得る能力をもち、又吸盤の縁部には感覚器官が分布し、触れたものの形や違いなどを識別する。

タコの皮膚は黄色・赤褐色・紫黒色の3つの部分から出来ていて前二者は有機溶剤に可溶で、紫黒色は溶けないが、うすいアルカリ溶液には溶ける。このとき紫黒色は赤色化する。タコを煮るとタコの体内のアルカリ性物質がゆで汁に溶けるので皮の蛋白質と結合して赤変する。店頭で販売しているもののうち、鮮赤色をしたものは着色したもので、煮ただけの自然のものに赤紫黒色を呈する。

カニ、エビ等の甲殻類及び二枚貝類にとってタコは天敵であるが、タコの天敵はウツボである。タコが岩穴から這い出したところを見つけたウツボは直ちに襲撃する事なく、ウツボは鋭い歯をむき出し、タコは胴を平らく伸ばし傘膜を広げ、互いに威嚇対峙する。隙を見つけるとウツボは猛然と突進し、タコの腕をくいぎり眼の周辺の頭部を攻撃する。タコはウツボの鰓蓋に狙いをつけ、腕で吸い着き窒息死させると言う死闘が続けられる。

## マダコ

分類: 八腕目 マダコ科(頭足類)  
学名: *Octopus vulgaris*  
英名: Devil fish

全世界の熱帯から亜寒帯まで分布域が広汎である。頭部には見られる各種の内臓諸器官が、外套膜の切れ目から海水を取り入れ鰓の呼吸を行うための水管・漏斗が突出して居る。頭・眼部分に脳、口球・顎板(カラストンビ)等がある。4対の腕があり、その下部には吸盤が2列に並び、吸盤の縁部に化学的感覚器、味覚識別する化学的触能が良く発達している。二枚貝、甲殻類が大好物で傘膜の下に腕を伸ばして餌を集め唾液腺を分泌してチラミン毒素を捕食する。この筋肉質は高き機敏な運動、物をつかむ強さ、思はず一本色に変わる能力、再度発達した眼の知能等、攻撃・防御に発達した器官が、一瞬のうちに相手を捕らうと種類は、同属の遙々大型のミスダコ (*Octopus dofleini*) がある。



北朝鮮 - 1965



ウルグワイ - 1968



サンマリノ - 1966



キューバ - 1967



シヤ - 1972



フランス領アフリカ - 1973